〈介護職員初任者研修用〉

別添様式４

カリキュラム(通信課程用)

事業者名　ひなたスマイルケアサポーターズ株式会社
研修事業の名称　介護･看護求人支援センター鹿児島　介護職員初任者研修（通信）

１　職務の理解（６時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	２時間	《講義内容》 介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護保険サービス（居宅・施設）とそれ以外（障害者・児サービス等）について理解する。 ・介護保険サービス（居宅、施設） ・介護保険外サービス
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	４時間	《講義内容》 多様な居宅、施設サービス現場におけるそれぞれの仕事内容を理解する。講師による講義の他、様々な働く現場について視聴覚教材を活用して理解を深める。 ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ ・ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 《演習》 DVD や事業所パンフレットなどを活用し、働く現場の理解を深める。
合計	６時間	

２　介護における尊厳の保持・自立支援（９時間）

項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①人権と尊厳を支える介護	５時間	１時間	４時間	1 問題1 ～ 問題8	《講義内容》 人権や尊厳を守ることの重要性を、背景となる哲学や制度、法律とともに理解する。 （ア）人権と尊厳の保持 ・個人として尊重・アドボカシー・エンパワメントの視点 ・「役割」の実感・尊厳のある暮らし・利用者のプライバシーの保護 （イ）ICF ・介護分野における ICF （ウ）虐待防止・身体拘束禁止 ・身体拘束禁止・高齢者虐待防止法・高齢者の養護者支援 （エ）個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法・成年後見制度・日常生活自立支援事業 《演習》 「人権や尊厳を守る」とは具体的にどのようなことか、コラムなどを活用し、理解を深める。 《添削課題出題ポイント》 ・高齢者のための国連五原則について ・QOL の考え方について ・ノーマライゼーションの考え方 ・バリアフリー、ユニバーサルデザイン ・虐待の種類、特徴について ・高齢者の財産を守る制度について

②自立に向けた介護	４時間	0.5 時間	3.5 時間	１ 問題9 ～ 問題16	《講義内容》 自立に向けた介護の重要性と意義、介護予防や重度化予防の視点について理解する。 （ア）自立支援 ・個別性、個別ケア・重度化防止 《演習》 食事や排泄など日常動作に一連の流れを知ることが「できること」と「できないこと」を見極め残存能力の活用につながることを理解する。 《添削課題出題ポイント》 ・自立、自律支援・残存能力の活用・動機と欲求・意欲を高める支援の考え方 ・自己選択、自己決定の意味と効果について ・介護予防の考え方と具体的な取り組みについて
合計	９時間	1.5 時間	7.5 時間		

３　介護の基本（６時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	２時間	１時間	１時間	２ 問題１ ～ 問題４	《講義内容》 地域包括ケアの重要性や介護職の役割と専門性、多職種の理解と連携の方法について理解する。 （ア）介護環境の特徴の理解 ・訪問介護と施設介護サービスの違い・地域包括ケアの方向性 （イ）介護の専門性 ・重度化防止、遅延化の視点・利用者主体の支援姿勢・自立した生活を支えるための援助・根拠のある介護・チームケアの重要性・事業所内のチーム・多職種から成るチーム 《添削課題出題ポイント》 ・科学的根拠に基づく介護実践 ・社会福祉士及び介護福祉士法改正の背景と考え方 ・異なる専門性を持つ多職種の理解・介護支援専門員・サービス提供責任者・看護師等とチームとなり利用者を支える意味・互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供・チームケアにおける役割分担
②介護職の職業倫理	１時間	0.5 時間	0.5 時間	２ 問題５ ～ 問題７	《講義内容》 専門家としての社会的責任、倫理に根ざした姿勢、支援の方法を理解する。 ・専門職の倫理の意義 ・介護職としての社会的責任 《添削課題出題ポイント》 ・介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等） ・プライバシーの保護、尊重

③介護における安全の確保とリスクマネジメント	２時間	１時間	１時間	２ 問題8 ～ 問題 12	《講義内容》 安全を確保するための事故への備え、環境整備などリスクマネジメントの考え方や方法、感染症予防・対策について理解する。 （ア）介護における安全の確保 ・事故に結びつく要因を探り対応していく技術・リスクとハザード （イ）事故予防・安全対策 ・リスクマネジメント・分析の手法と視点・事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）・情報の共有 《演習内容》 「考えられるリスク」についてグループワークを行い、未然に防ぐための方法までを検討する（場面・病気・環境別に検討する） 《添削課題出題ポイント》 ・高齢者の特性について ・事故予防のための危険予知訓練について ・感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）・「感染」に対する正しい知識
④介護職の安全	１時間	0.5 時間	0.5 時間	２ 問 題 13 ～ 問 題 16	《講義内容》 こころの健康管理について理解する。 ・介護職の健康管理が介護の質に影響 ・ストレスマネジメント ・手洗い、うがいの励行 ・手洗いの基本 ・感染症対策 《演習内容》 実際にからだを動かし、ボディメカニクスを理解する。 《添削課題出題ポイント》 ・介護職員の安全衛生を守るための事業者の取り組み ・腰痛の予防に関する知識
合計	６時間	3 時間	3 時間		

４　介護・福祉サービスの理解と医療との連携（９時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護保険制度	４時間	0.5 時間	3.5 時間	3 問題１ ～ 問題７	《講義内容》 高齢者の自立を支えるためのしくみやサービスがどのように創り上げられているのか、行政の役割、実際のサービス内容や利用の流れを理解する。 ・ケアマネジメント・予防重視型システムへの転換・地域包括支援センターの設置・地域包括ケアシステムの推進 （イ）仕組みの基礎的理解 ・保険制度としての基本的仕組み・介護給付と種類・予防給付 《添削課題出題ポイント》 ・介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ・要介護認定の手順 ・制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 ・財源負担・指定介護サービス事業者の指定 ・高齢者を支える介護保険給付以外の事業
②医療との連携とリハビリテーション	2.5 時間	１時間	1.5 時間	3 問題８ ～ 問 題 11	《講義内容》 リハビリテーションの役割や専門職について理解する。 ・訪問看護 ・施設における看護と介護の役割、連携 《演習》 バイタルチェック（血圧・体温、脈拍等の測定）を実際に行うことで方法を理解する。 《添削課題出題ポイント》 ・介護職員が行うことができる医療的ケア ・リハビリテーションの理念、目的

③障害福祉制度およびその他制度	３時間	0.5時間	2.5時間	3 問題12 ～ 問題19	《講義内容》 障害者総合支援法の理念、制度の仕組み、障害福祉サービス、支援者の連携について理解する。 ・ICF（国際生活機能分類） （ア）障害福祉制度の仕組みの基礎的理解 ・介護給付、訓練給付の申請から支給決定まで 《添削課題出題ポイント》 ・障害福祉制度の理念 ・障害の概念、定義 （イ）個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法・成年後見制度・日常生活自立支援事業
合計	9.5時間	2時間	7.5時間		

５　介護におけるコミュニケーション技術（６時間）

項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護におけるコミュニケーション	４時間	２時間	２時間	4 問題1 ～ 問題6	《講義内容》 コミュニケーションの意義・目的・役割、基本技術、障害に応じたコミュニケーションの実際について理解する。 （ア）介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 （イ）コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション （ウ）利用者とのコミュニケーションの実際 ・利用者の思いを把握する・意欲低下の要因を考える・利用者の感情に共感する・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い （エ）利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ・視力の障害に応じたコミュニケーション技術・失語症に応じたコミュニケーション技術・構音障害に応じたコミュニケーション技術 《演習内容》 ・タッチングを実施することで、非言語的

					コミュニケーションの効果・重要性を理解する。 ・「閉じられた質問から相手の言葉当て」をすることによって回答を得ることに困難さがあることを理解する。 ・事例（認知症や失語症など）を通して、コミュニケーション障害のある方との関わりのあり方を理解する。 《添削課題出題ポイント》 ・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮・傾聴・共感応答 ・言語的・非言語的コミュニケーションの特徴 ・家族とのコミュニケーションの実際（家族の心理的理解・家族へのいたわりと励まし・信頼関係の形成・自分の価値観で家族の意向を判断し非難することのないようにする） ・聴覚障害に応じたコミュニケーション技術 ・認知症に応じたコミュニケーション技術
②介護におけるチームのコミュニケーション	２時間	１時間	１時間	4 問題7 ～ 問 題 13	《講義内容》 記録の意義、効率的な記録方法、各種会議等の留意点を理解する。 （ア）記録における情報の共有化 ・利用者の状態を踏まえた観察と記録 ・介護に関する記録の種類・個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等）・ヒヤリハット報告書・5W1H （イ）コミュニケーションを促す環境 ・会議・情報共有の場・役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼） 《演習内容》 「記録の意義に対する認識不足から支援や職員連携に支障を来した職員の事例」を通して、記録の重要性を理解する。 《添削課題出題ポイント》 ・介護における記録の意義、目的 ・記録の書き方

					・報告・連絡・相談の意味 ・サービス担当者会議の意義 ・ケアカンファレンスの重要性
合計	６時間	３時間	３時間		

６　老化の理解（６時間）

項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	３時間	1.5時間	1.5時間	5 問題1 ～ 問題4	《講義内容》 老化により高齢者のこころとからだがどのように変化し、どのような状態になるのか、高齢者介護における基本的な留意点について理解する。 （ア）老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・防衛反応（反射）の変化・喪失体験 （イ）老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ・身体的機能の変化と日常生活への影響・咀嚼機能の低下・筋、骨、関節の変化・体温維持機能の変化・精神的機能の変化と日常生活への影響 《演習》 カラーフィルム等を活用し、「白内障体験」を行い、支援のポイントを理解する。 《添削課題出題ポイント》 ・寿命と老化の特徴 ・知的能力の老化とその特徴

					・老化によるこころとからだの変化
②高齢者と健康	３時間	1.5 時間	1.5 時間	5 問題5 ～ 問 題 12	《講義内容》 高齢者に多い疾患や生活習慣病、日常における高齢者の生活支援の留意点を理解する。 （ア）高齢者の疾病と生活上の留意点 ・骨折・筋力の低下と動き、姿勢の変化・関節痛 （イ）高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ・循環器障害（脳梗塞・脳出血・虚血性心疾患）・循環器障害の危険因子と対策・老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症）・誤嚥性肺炎・症状の小さな変化に気づく視点・高齢者は感染症にかかりやすい 《添削課題出題ポイント》 ・高齢者に多い疾患の理解 ・老化に伴う心身の変化の理解 ・廃用症候群が引き起こす症状の理解
合計	６時間	3 時間	3 時間		

7　認知症の理解（６時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①認知症を取り巻く状況	１時間	0.5 時間	0.5 時間	6 問題１ ～ 問題３	《講義内容》 認知症高齢者の行動や心理症状の理解を通して、共感的な姿勢で関わるケアについて理解する。 ・パーソンセンタードケア 《演習》 認知症に関するコラムなどを活用し、グループワークを行い、共感的な関わりのポイントについて理解する。 《添削課題出題ポイント》 ・認知症の中核症状の理解 ・認知症の人の状態の理解 ・認知症の人との関わりの視点 ・認知症の人を中心に据え全人的な興味を持ち関わる姿勢の理解
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	２時間	１時間	１時間	6 問題４ ～ 問 題 10	《講義内容》 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ・認知症の定義・物忘れとの違い・せん妄の症状・健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）・治療・薬物療法・認知症に使用される薬 《添削課題出題ポイント》 ・認知症の定義・物忘れとの違い ・認知症の概念、 ・認知症の原因疾患とその病態 ・原因疾患別ケアのポイント、健康管理

③認知症に伴うこころと からだの変化と日常生活	２時間	１時間	１時間	6 問 題 11 ～ 問 題 15	《講義内容》 認知症の中核症状、行動・心理症状の現れ方や症状、適切なコミュニケーションや基本的なケアの方法、について理解する。 （ア）認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の中核症状・認知症の行動、心理症状（BPSD）・不適切なケア・生活環境で改善 《演習内容》 「認知症の困難事例」を活用し、グループワークを行い、適切な関わり方のポイントについて理解する。 《添削課題出題ポイント》 （ア）認知症の行動、心理症状（BPSD）の特徴と適切な関わりの理解 （イ）認知症の利用者への対応 ・本人の気持ちを推察する・プライドを傷つけない・相手の世界に合わせる・失敗しないような状況をつくる・すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること・身体を通したコミュニケーション・相手の様子、表情、視線、姿勢などから気持ちを洞察する・認知症の進行に合わせたケア ・認知症の人のケアマネジメントセンター方式の理解

④家族への支援	1時間	0.5 時間	0.5 時間	6 問 題 16 ～ 問 題 18	《講義内容》 24時間を通して認知症高齢者に向き合い、支えている家族介護者のさまざまな思いを学び、介護職員として「家族をどう支えるのか」を理解する。 ・認知症の受容過程での援助 ・介護負担の軽減 《添削課題出題ポイント》 ・家族介護者のさまざまな思いの理解 ・家族介護者へのエンパワメント ・家族介護者のレスパイトサービス
合計	6時間	3時間	3時間	6	

８　障害の理解（３時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①障害の基礎的理解	１時間	0.5 時間	0.5 時間	7 問題 1 ～ 問題 3	《講義内容》 障害の概念、障害者を支える制度や仕組み、法律など障害に関する基礎的な理解を深める。 （ア）障害の概念 ・障害の考え方 （イ）障害福祉の基本理念 ・ノーマライゼーションの概念 《添削課題出題ポイント》 ・ICF の分類と医学的分類・ICF の考え方 ・身体障害者の定義 ・障害者基本法の理解
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	１時間	0.5 時間	0.5 時間	7 問題 4 ～ 問 題 10	《講義内容》 視覚障害や聴覚障害をはじめ、内部障害や精神障害などについて、疾患や症状、介護における留意点、基本的姿勢を理解する。 （ア）身体障害 ・視覚障害・聴覚、平衡障害・音声、言語、嚥下障害・肢体不自由・内部障害 （イ）知的障害 ・知的障害 （ウ）精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） ・統合失調症、気分（感情障害）・依存症などの精神疾患・高次脳機能障害・広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 （エ）その他心身の機能障害 《演習》 耳栓やカラーセロファンなどを活用し、聴覚・視覚障害について体験的に理解する。 《添削課題出題ポイント》 ・視覚障害、聴覚・平衡機能障害、音声・言語・咀嚼機能障害、内部障害、発達障害、精神障害の理解 ・脳性まひの定義、症状の理解

③家族の心理、かかわり支援の理解	1時間	0.5時間	0.5時間	7問題 11 ～ 問題 13	《講義内容》 家族支援にあたっての留意点、家族に寄り添うことの重要性について理解する。 家族への支援 ・障害の理解、障害の受容支援 ・介護負担の軽減 《添削課題出題ポイント》 ・家族の心理や障害受容の過程の理解 ・障害受容支援 ・当事者団体の活動の意義と活動内容を知ることの重要性について
合計	3時間	1.5時間	1.5時間		

9　こころとからだのしくみと生活支援技術（７５時間）						
基本知識の学習	項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	①介護の基本的な考え方	２時間	１時間	１時間	8 問題1 ～ 問題5	《講義内容》 介護の基本的な考え方として、介護の理念や法的根拠、介護を行う上での視点について理解する。 ・理論に基づく介護（ICF の視点に基づく生活支援、我流介護の排除） 《添削課題出題ポイント》 ・求められる介護福祉士像の理解と介護のあり方について ・法的根拠に基づく介護
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	３時間	1.5 時間	1.5 時間	8 問題6 ～ 問 題 11	《講義内容》 記憶や感情のメカニズムをはじめ、自己概念、老化や障害の受容・適応などこころのありようを理解する。 ・学習と記憶の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・こころの持ち方が行動に与える影響 ・からだの状態がこころに与える影響 《添削課題出題ポイント》 ・マズローの欲求階層説の理解 ・感情と意欲の基礎知識 ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因

	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	５時間	４時間	１時間	8 問 題 12 ～ 問 題 19	《講義内容》 人体各部の名称をはじめ、骨・関節・筋の構造、神経や内部器官など、からだのしくみの基礎的知識を理解する。 ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点 《添削課題出題ポイント》 ・人体構造、機能の理解 ・バイタルサインの理解 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	３時間	1.5 時間	1.5 時間	8 問 題 20 ～ 問 題 28	《講義内容》 生活支援としての家事サービスのありかたを明確にするとともに、実際の調理、洗濯、掃除等の家事サービスにおける留意点などを理解する。 《演習内容》 シートを活用し、「野菜の切り方」「洗濯表示記号の読み方」を確認する。 《添削課題出題ポイント》 ・家事と生活の理解 ・家事援助に関する基礎知識と生活支援 ・生活歴を理解することの重要性 ・多様な生活習慣、価値観の理解 ・自立支援、予防的な対応 ・主体性、能動性を引き出す

	⑤快適な居住環境整備と介護	３時間	１時間	２時間	8 問 題 29 ～ 問 題 37	《講義内容》 快適な居住環境整備に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ・家庭内に多い事故・バリアフリー・住宅改修・福祉用具貸与 《演習内容》 移動用具や排泄用具など、介護場面で実際に活用されているものを紹介し、実際に触れてみる。 《添削課題出題ポイント》 ・快適な居住環境整備の意義 ・快適な居住環境整備の基礎知識 ・住宅改修、福祉用具貸与の理解と活用方法 ・事故防止のための環境整備と福祉用具の活用
	⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	７時間	6.5 時間	0.5 時間	8 問 題 38 ～ 問 題 41	《講義内容》 整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ・身じたく、整容行動、洗面の意義、効果 《演習》 衣服の着脱（臥位・座位）、口腔ケアなどを実際に行う。 《添削課題出題ポイント》 ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ・口腔ケアの効果と方法

	⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	9時間	7.5 時間	1.5 時間	8 問 題 42 ～ 問 題 49	《講義内容》 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法・利用者の自然な動きの活用・残存能力の活用、自立支援・重心、重力の動きの理解・移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）・移動介助（車いす、歩行器、つえ等）・褥瘡予防 《演習》 様々な移動用具を使用し、体位変換、車いすへの移乗・移動、肢体不自由者の杖歩行介助、視覚障がい者の歩行介助など移動支援技術を実際に行う 《添削課題出題ポイント》 ・まひの障害部位の理解 ・ボディメカニクスの基本原理 ・体位の種類の理解 ・移動、移乗に関連する福祉用具の種類と構造、使用法の理解 ・車いす、歩行介助のポイントの理解

	⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	７時間	6.5 時間	0.5 時間	8 問　題 50 ～ 問　題 54	《講義内容》 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ・食事をする意味・食事のケアに対する介護者の意識・低栄養の弊害・脱水の弊害・食事と姿勢・咀嚼、嚥下のメカニズム・空腹感・満腹感・好み・食事の環境整備（時間・場所等)・食事に関した福祉用具の活用と介助方法 《演習》 ・食品を準備し、食事介助（臥位・座位）を実際に行う。 《添削課題出題ポイント》 ・栄養の理解 ・食品調理の方法の理解 ・食中毒防止の基礎知識 ・食事介助の技法 ・疾患に合わせた食事提供の理解

	⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間	6.5時間	0.5時間	8問題 55 ～ 問題 60	《講義内容》 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ・羞恥心や遠慮への配慮・体調の確認・全身清拭（身体状況の確認、室内環境の整備、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）・目、鼻腔、耳、爪の清潔方法・陰部洗浄（臥床状態での方法）・足浴、手浴、洗髪 《演習》 浴槽を活用した全身浴、部分浴（手浴・足浴）、清拭、洗髪等を実際に行う。 《添削課題出題ポイント》 ・入浴の意義と影響の理解 ・入浴、整容に関する用具の理解 ・入浴、清潔保持の介助のポイント

	⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	７時間	6.5 時間	0.5 時間	8 問 題 61 ～ 問 題 65	《講義内容》 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ・排泄とは・身体面（生理面）での意味・心理面での意味・社会的な意味・プライド、羞恥心・プライバシーの確保・おむつは最後の手段・おむつ使用の弊害・排泄障害が日常生活上に及ぼす影響・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担、尊厳や生きる意味との関連・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法･便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫、繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ） 《演習》 尿器･便器の介助、ポータブルトイレの介助、おむつ交換等を実際に行う。 《添削課題出題ポイント》 ・排泄に関する基礎知識 ・排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法

	⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	７時間	6.5 時間	0.5 時間	8 問 題 66 ～ 問 題 69	《講義内容》 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ・安眠のための介護の工夫・環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）・安楽な姿勢、褥瘡予防 《演習》 心地よい睡眠を確保するためのベッドメイキングを実際に行う。 《添削課題出題ポイント》 ・睡眠に関する基礎知識 ・睡眠環境と用具の活用方法 ・褥瘡予防 ・安楽な姿勢への介助

	⑫死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護	３時間	２時間	１時間	8 問 題 70 ～ 問 題 76	《講義内容》 終末期に関する基礎知識、こころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援 ・終末期ケアとは・高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）・臨終が近づいた時の兆候と介護・介護従事者の基本的態度・多職種間の情報共有の必要性 《演習》 事例を活用し、「その人らしい死を迎えるための介護のあり方」についてグループワークを通じて理解する。 《添削課題出題ポイント》 ・死へのプロセスと介護 ・在宅ターミナルケアの要件 ・キューブラー・ロスの「死にゆく人のこころの過程」の理解 ・看取りにおける介護のあり方と家族支援
生活支援技術演習	⑬介護過程の基礎的理解	６時間	《講義内容》 ・介護過程の目的、意義、展開 ・介護過程とチームアプローチ 《演習》 事例を活用し、「介護過程の視点や目的」についてグループワークを通じて理解する。			

	⑭総合生活支援技術演習	６時間	《講義内容》 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点を習得する。 ・2 事例を展開する 事例の提示⇒こころとからだの力が発揮できない要因の分析⇒適切な支援技術の検討⇒支援技術演習⇒支援技術の課題⇒評価 《演習》 事例を活用し、「実践的な介護の方法」についてグループワーク・実技演習を通じて理解する。
実習			（なし）
	合計	75 時間	

１０　振り返り（４時間）

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	２時間	・研修を通じて学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等） 《演習》 研修で学んだことについて各々レポートにまとめ、発表することで更に学びを深める。
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2 時間	・継続的に学ぶべきこと ・研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例（OFF-JT、OJT）を紹介
合計	4 時間	

全カリキュラム合計時間	130.5 時間

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。
※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること